



ニュース

No. 25

October 15, 2002

愛知大学豊橋語学教育研究室

特集 — 検定試験に挑戦 —



イタリア側から望むマッターホルン

CONTENTS

◎ 特集 検定試験に挑戦

• 各種英語検定の傾向と対策(塚本鋭司).....	2	• フランス語検定合格体験記	
• ドイツ語検定試験の薦め(大島隆雄).....	4	— バーチャル座談会—(中尾 浩).....	21
• フランス語関係の検定試験(中尾 浩).....	7	• 中国語検定(清水多恵).....	22
• 検定試験に挑戦 — 中国語—(塩山正純).....	8	• タイ語検定試験に挑戦(脇谷優美).....	23
• ロシア語検定について(清水伸子).....	10	◎中国語の単語の学び方	
• 「ハングル能力検定試験」案内(常石希望).....	12	— 語豪 鷗外の文机から—(葛谷 登).....	24
• それ行け!! タイ語検定(加納 寛).....	13	◎大学の外国語授業で、どういう力をつけるか(鈴木常勝).....	25
• 外国語としての日本語関連試験(田中衛子).....	15	◎LL Tea Time	
• 一勝一敗の「ハングル」能力検定(田川光照).....	17	• 国際ワークキャンプに参加して	
• 英語検定(田村香澄).....	18	~ 素晴らしい出会い~(松本友紀).....	28
• 英語修得を目指して(鳥居 潤).....	19	◎自習室だより.....	30
• ドイツ語検定(杉山ひろみ).....	20	◎外国語検定試験合格者に奨励金を贈ります!.....	30

各種英語検定の 傾向と対策

国際コミュニケーション学部

塚 本 鋭 司

英語の習熟度を測るのに検定試験は役に立つ。またある級の合格を目指すのは学習の励みとなる。ここではどのような英語の検定試験があるのか、それらの検定試験の傾向はどのようなものなのか、また日頃の学習とそれらの検定試験とをどのように関連づけて学習すればよいのかを述べたい。

まず、もっとも多くの方が受験する英語検定試験は、日本英語検定協会が主催する実用英語技能検定である。実用英語とは「日常の社会生活に必要な英語」で、この検定試験は「聞く・話す・読む・書く」の四技能を、基礎知識から運用能力まで総合的に測るように構成されている。級は初級の5級から上級の1級までであるが、大学生としては、準1級、もしくは1級の合格を目指したい。

近年受験者が増え、また企業などでも新入社員に対して受験を課している試験として、TOEIC(Test of English for International Communication)がある。この試験の特徴は、200問中、100問がリスニング問題ということだ。その他100問のうち60問は文法問題、40問は読解問題で、すべてマークシート方式である。単純に実用英語検定との比較はできないが、日本英語検定協会のホームページ上の資料によると、TOEIC900点が英検1級、751点が準1級、519点が2級程度と記載されている。

TOEICはアメリカのニュージャージー州にあるETS(Educational Testing Service)が実施しているテストで、国際ビジネスで広く使われている英語のコミュニケーション能力を測るために開発された試験である。設問の内容は、日常のビジネス場面でよく使われる英語がたくさん含まれているが、ある特

定のビジネスの専門知識をあまり必要としない。私がアメリカのニューヨーク州にあるシラキュース大学大学院で学んでいたとき、NECから派遣されてきた私と同年輩の駐在員と親しくなったが、彼はある大学の経営学部の卒業で、TOEICは確か900点ぐら이었다と言っていたのを記憶している。彼は現在もアメリカのダラスで仕事をしているが、国際舞台の一线で活躍するには、やはり900点ぐらいの英語力が必要だ。

アメリカやカナダへの留学を考えている人なら、TOEFL(Test of English as a Foreign Language)を受ける必要がある。TOEFLはTOEICと同じくETSが実施している。歴史はTOEICよりTOEFLの方が古く、実はTOEICはTOEFLを元にビジネス英語を測る試験として新しく開発されたものである。それはさておき、TOEFLとTOEICの大きな違いは、TOEFLはアメリカ、カナダの大学、大学院で学習するのに必要な英語力を測るテストなので、内容は学術に関するものがほとんどで、全体的にTOEICより難易度が高い。またアメリカの文化の知識がある程度ないと解けないような問題がTOEFLでは出題される。出題形式はリスニング50問、文法問題40問、長文読解問題50問で、すべてマークシート形式である。また日本では2000年10月からコンピュータ版TOEFL(CBT: Computer-Based Test)も受験できるようになった。注意すべき点は、今までのTOEFLとCBTでは配点や合計点が違う。TOEFLのパンフレットによれば、TOEFL600点はCBTでは260点、TOEFL540点はCBT207点である。実用英語検定と比較すると、1級はTOEFL610点、準1級は542点、2級は456点相当である。

それから時事英語の力を試したい人なら、国連英検を私は勧めたい。国連英検には英検やTOEIC、TOEFLにない特徴がいくつかある。まず第一に、国連に関する質問が全体の10%ぐらい出される。その対策としてはA Concise Guide to the United Nationという130ページほどの英語で書かれた本

を事前に読んでおく必要がある。第二にB級以上はリスニングがないが、時事問題に関する英作文が課される。実用英語検定1級の英作文と違い、時事問題に関して自分の意見を英語で述べる問題である。第三に二次試験の面接では時事問題に関して自分の意見を述べるという形式で、実用英語検定の二次試験に比べて会話能力が試されるのではないかと思う。また一通り最近の世界情勢に関する事を頭に入れておけば、確実に面接で高得点が見込めるのも、国連英検の特徴といえる。国連英検の級は特A級、A級、B級、C級、D級、E級とあり、C級が英検2級、B級が準1級、A級が1級、特A級が1級以上というのが、英検との比較である。

また通訳に興味がある人は、通訳ガイド試験や通訳技能検定試験の2級、準1級、1級を目指すのもよいだろう。これらの試験はプロの通訳を目指す人のもので、英検1級程度の実力でないと合格は非常に難しいが、ボランティア通訳検定A級やB級なら大学生でも十分合格可能である。ボランティア通訳検定は、国際交流において自分の通訳能力を役立てたい人のために行われている。ボランティア通訳検定B級は英検2級程度、試験は語彙、読解を問う筆記試験とリスニングテストである。またA級は英検準1級程度で、1次試験は語彙、英文和訳、和文英訳、読解を試す筆記試験で、2次試験は英語のスピーチの部分通訳と概略説明である。

いままで各種の英語検定試験について述べてきたが、次に私の体験を交えながら、どのような対策をしたらよいか、書こうと思う。私は英検準1級と1級、国連英検B級とA級に合格、それにTOEFLを留学する前に何度もうけたことがあるが、一番大切なのは、日頃からどのようなレベルの英語が自分に必要なのかをしっかりと自覚する事である。私は以前高校で英語を教えていたので、英検1級と国連英検A合格を目標に勉強していた。ビジネスの場面での英語力の向上を望むならTOEIC、留学を将来考えているならTOEFL、時事英語をしっかりとやりたいのなら国連英検、就職で自分の英語力をアピールし

たいなら実用英検とTOEICというように、目標を絞り込んだ方がよい。目標を定めたら過去問題集を一つ買い、その試験の傾向を理解することが大切である。大きな書店なら、英検、国連英検の問題集は売っているから、自分でやれそうなものを一つ選べばいい。またTOEICやTOEFLに関してはアメリカの出版社からでているものを使用するのもよいと思う。私はCliffs社からでているTOEFLの問題集を使っていた。

各検定試験については問題集を解くことによって対応できるが、基本となる読み、書く、聞く、話すの英語力をつけることはとても重要である。この基本的な英語力が向上しなければ、各種検定の傾向を頭に入れても高得点や合格は難しいであろう。ではどうすればよいか。常日頃から自分でちょっと難しいかなと思うような英文を毎日少しでもよいから読む習慣をつける必要がある。大学生ならJapan Timesや各新聞社が出している英字新聞、また週刊誌ならNewsweekあたりが適当ではないかと思う。私自身、大学生の頃はその当時駅の売店で買えたAsahi Evening Newsを読んでいた。これら雑誌や英字新聞を読む場合、見出しをみて、自分にとって興味がありそうな記事に目を通せばよい。最初に読むときは辞書を使わずに、だいたいの内容を理解するようにし、二度目に読むときはわからない単語を調べて、自分の単語帳にその単語と意味を書いておく。そうすることにより、同じ記事を一回目に速読、二回目に精読することとなり、二通りの読み方が実践できる。私は単語とその単語の意味をエクセルに入力し、ソート機能を使ってアルファベット順に並べて、プリントアウトしたものを覚えるようにしていた。そうしていると、たまに以前調べた単語を再度入力することがあり、自分の覚えた単語の定着率が直感的にわかり、勉強の励みになった。

リスニングについては、NHKのテレビ、ラジオ講座が大学生には向いていると思う。特にラジオではビジネス英会話、英会話レッツスピーク、テレビでは英会話トーク&トークは内容も面白く、また英

語のレベルも大学生にふさわしいので、是非活用してほしい。リスニングを向上させるにはただ漫然と英語を聞くのではなく、集中して会話の内容を理解する必要がある。会話を聞くときは、あとで自分で使えそうな表現をメモしておいて、それを暗記するとか、レクチャー形式の英語を聞くときには、自分で英語でメモを取る練習をすれば、必ずリスニング力は向上する。

英作文は、大学での英作文の授業を有効に活用するのが一番よいと思う。それ以外に英語を書く場合は、普通の大学生にはあまりなく、せいぜい海外にペンフレンドや知り合いがいれば、英語で電子メールを書くぐらいだろうから、英語を書く授業に真剣に取り組んでほしい。しゃべることについても、英会話の授業中に、間違えることを恐れずに、積極的にしゃべるようにしてほしい。そして、自分が得意とする表現をいくつか習得し、それを有効に使ってほしい。日本語でもそうだが、英語でも人それぞれ得意とする表現がある。たとえば私のよく知っているアメリカ人の教授は、[end up ~ing]という表現をよく使っていたし、あるアメリカ人の大学院生は、何か思いつきで自分の考えを述べる時に[off the top of my head]という表現をよく使っていた。これはほんの一例だが、それぞれの状況に応じて、自分の言いやすい表現を習得することが、会話の上達につながると思う。

最後に英語を通して自分は何をしたいのかをしっかりと考えてほしい。私にとって、英語は日本語では得られない情報を提供してくれる情報の媒体であり、また国際情勢やアメリカの教育や社会を理解するのに非常に有効な言語である。皆さんにとって英語はどのような役割をするのか、またどのように英語を活用したいのかをよく考えてほしい。英語に興味を持つということはある意味で、異文化や国際社会に興味を持つということで、その異文化や国際社会にどのように関わりを持つのか、またどのように英語を活かしていくのか、是非考えてほしい。そうすれば、ここで紹介した英語の各種検定に対して、より前向きに取り組めるようになると思う。

ドイツ語検定試験の薦め

経済学部

大島 隆雄

はじめに

長年ドイツ経済史を研究してきた者として、私は自分の専門領域以外に、ツールとして用いてきたドイツ語や英語についても、その能力を確認し、できればそれを少しでも伸ばしたいと思ってきた。そのため、若い学生諸君に交って気恥かしい限りであったが、数年前まず独検に挑戦した経験をもっている。それは、1999年春、春期には1・2級がないため、まず3級から始めて満点で合格し、同年秋期には寝不足のまま、無謀にも午前に2級、午後には1級を受けて、2級は通ったが、1級は不合格となり、結局2級の二次には合格し、2000年秋期になってようやく1級の一・二次とも突破するという経過をたどった。

このように、学生諸君とは動機と出発点がいささか異なるが、ドイツ語を習得しようという気持とその受験準備をするといった点では基本的に同じであり、そのためここに独検の概要を紹介して、その意義について考えてみたい。

ドイツ語検定試験の概要

独検の場合は、5級から1級まで7段階ある英検とは異なり、4～1級の4段階しかない。春期（6月下旬）は3・4級の筆記試験・聞き取り試験のみであり、この地方では名古屋大学で行なわれている。秋期（11月下旬）には、3・4級（筆記・聞き取り試験）と1・2級の一次試験（筆記・聞き取り）が、南山大学で実施され、1・2級の一次合格者の二次試験（口述）は、翌年1月下旬、東京や大阪で行なわれている。この1・2級の一次合格者は、よほど成績の良い者を除いて、英検のように自動的に3年間、二次の受験資格を保持できるということはない。

以下、各級の要旨を紹介するが、その場合、問題

の構成や性格、配点等については、年度により、また春・秋によって多少異なっていること、また配点は全級とも素点では100点以上になるが、それは100点満点に換算されて判定され、通知されることを予め指摘しておきたい。この紹介の基礎になっているのは、おもに自分自身の体験と2001年度の試験内容及びそのデータである。

4級 これは、筆記試験(60分)と聞き取り試験(約20分)からなり、その配点は時によりすこし違うが、ほぼ前者75%、後者25%である。

筆記試験は9問から構成され、アクセントの位置や基本動詞の現在変化形といった初歩的な文法、それに簡単な独文の読み取りなどを内容とし、また聞き取り試験は3部からなり、いずれも短いドイツ語を聞き、質問に応じた正しい答えを4択の形で選択したり、簡単な単語や数字を聞き取って書いたり、また聞かされる独文の内容に対応する絵を選ぶといったものである。

4級の検定基準としては、公式的には「対象は、一回90分のドイツ語授業を週二回約20週(約60時間)受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人」とあるが、これは独文や国コミの学生が真面目に勉強していれば、2年次にはかならず合格できる水準である。

因みに2001年度の全国的な統計数値をあげれば、以下の通り。春期：受験者1560、合格者1148、合格率73.59%、合格最低点60.26、平均点69.80。秋期：受験者3291、合格者1997、合格率60.68%、合格最低点58.33、平均点63.42。

3級 筆記試験(60分)と聞き取り試験(約20分)からなり、その配点は4級同様、前者が約75%、後者が約25%である。

筆記試験は、毎回8問出題されており、それは時により若干異なるが、2001年度には、アクセントの位置や発音、動詞の変化(現在完了・過去・命令形を含む)、再帰動詞、前置詞等やや高度な文法問題、他は4級よりやや難しい種々の読解問題から構成されている。聞き取り試験は2部構成で、I部では独文での質問に正しい答えを4択で選び、II部では独文を聞いて簡単な単語や数字を書き取ることになる。

3級の検定基準は、4級の倍で、「……一回90分のドイツ語授業を週二回40週(120時間)受講している……」人となっているが、私の知る限り、3年以上の学生が多く受けていたように思う。

参考までに、2001年度の全国的な結果は、次のようになっている。春期：受験者1820、合格者927、合格率50.93%、合格最低点60.07、平均点61.84、秋期：受験者2419、合格者1219、合格率50.39%、合格最低点57.62、平均点57.38。

2級 第一次試験の時間が、3・4級に比べて長くなり、筆記試験(90分)、聞き取り試験(約30分)となる。配点も前者が約80%、後者が約20%と変わる。そしてこの第一次試験の合格者のみが、第二次試験(口述試験)に進むことができる。

2級の筆記試験は、6問から構成されているが、いずれも相当な量である。分離動詞や派生語(動詞→名詞化)といった文法的な問題も出題されているが、その比重は下がり、かわって《STERN》等の雑誌論文などにもとづく長文読解が前面にでてきて、そのなかにはグラフや統計をも参照して回答する問題が含まれている。これらにまごつかず対処するためには、日頃からそのような雑誌論文や新聞記事に慣れておく必要がある。聞き取り試験は2部からなっている。そのいずれも、内容は比較的やさしいが長い文が2度読まれ、それに関して質問されて、4択の形で回答を選ぶものとなっている。これにはかなり高いリスニング力が要求される。

こうして第一次通過者が、第二次の口述試験にのぞむが、それはドイツ語を母国語とする人と日本人からなる2名の試験委員が、受験者と個別面接を行なう形で実施される。質問される内容は、家族、勉学、仕事、趣味等の日常的な話題で、それほど難しくなく、ほぼスムーズに答えられれば問題はない。試験時間は全部で5分程度で終る。

2級の検定基準は、3級のさらに2倍、「……一回90分のドイツ語授業を週2回約80週(約240時間)受講した……」人とあり、ドイツ語専攻者ならば、早ければ3年以上ならば受験可能である。しかし私の知る限り、2級合格者はよくて夏期講座などに参加した短期留学者か、普通は1年以上の長期留学者

に限られている。

このように2級になると格段と難しくなり、それは以下の全国的な数値にもあらわれている。第一次：受験者1579、合格者599、合格率38.01%、合格最低点73.00、平均点68.20。第二次：受験者571、合格者274、合格率47.99%、対一次受験者合格率17.39%。

1級 1級の第一次試験はさらに長くなり、筆記試験(120分)と聞き取り試験(約30分)である。配点は2級同様、前者約80%、後約20%。これに合格した者のみが、二次の口述試験を受けることができる。

第一次の筆記試験の構成は年によって異なるが、まず毎年7問からなっている。2001年度のそれをみれば、非常に難しい慣用句、動詞の慣用的用法、専門家とジャーナリストとの対話文の欠落部分に適切な文章をあてはめる問題 通常これがいちばん難しい、一部和訳をともなった長文読解、そして長くてややこしい日本語の独訳、等からなっている。

第二次の口述試験は、2級と同じく、ドイツ語を母国語とする人と日本人の2人からなる試験委員によって、受験者に対して個別に行なわれる。まず主に現在の日本事情に関して書かれた4つのテーマが示され、受験者はそのうち1つを選択、3分間自分の考えをまとめる時間が与えられた後、2~3分間でそれを展開し、その後さらにそれをめぐって質疑応答が行なわれる。全体で10~12分程度である。因みに2001年度のテーマは、(1)トップ・スポーツ選手の外国チームへの移籍、(2)食習慣の変化、(3)コンピュータ・ゲーム、(4)髪を染めること、であった。

1級の検定基準は、「…数年以上にわたって恒常的にドイツ語に接し、十分な運用能力を有する人」とあるように、少なくとも2年くらいは留学した人でないとなかなか通らないほど難しい。

そのため、2001年度の全国的な結果も、極めて限られた範囲のものとなっている。第一次：受験者250、合格者61、合格率24.40%、合格最低点73.02、平均点62.47。第二次：受験者57、合格者38、合格率66.67%、対一次受験者合格率15.20%、といった状態である。

む す び

この歳で、独検に挑戦した自分の経験をふり返って、私は若い学生諸君は決定的に有利な立場に立っていることを、まず指摘したい。私のように60歳を超えた者にとっては、むかし覚えたことを思い出すのが精一杯であって、衰え行く記憶力や理解力と戦いながら、さらに能力を伸すのは非常な苦勞をとまっていた。とくにリスニング力は、若い時ほどよく伸ばせるので、ぜひ君たちの年令で鍛えておいてほしい。まさに「若い頃に習得した知識や能力は一生の宝」となる。

次に、目標をもって勉強することの大切さである。それはかならずしも思い通りには、達成されないかも知れない。しかし逆に目標がなければ、なにごとにも実現されない。その意味で、ドイツ語を学び、マスターしたいと思う人々にとって、独検は非常によい恰好の舞台となる。私は2年生には4級を、3年生には3級を、そして3年以上の人でドイツなどでの夏期講座に参加した人には2級を推奨したい。しかしいずれにせよ、語学教育研究室のLL自習室には、独検が充足した1992年以後の『独検全問題集』が揃っているの、一度それを検討すれば、かならず自分の水準にあった級を発見できるはずである。

こうして、各級を一段、一段と合格しながら、自分の語学能力が上達したという達成感を味わってほしい。若い頃にはいうまでもなく、ほかの喜びもいろいろあるだろう。しかし語学検定によって、自己の知的能力の成長を実感できることは、またかけがえない喜びとなるはずである。



フランス語関係の 検定試験

文学部

中 尾 浩

検定試験を受ける動機にはいくつか考えられる。自分の実力がどの程度向上しているかを確かめる腕試しという動機があるだろうし、その検定試験において所定の級なりスコアを得ることによってそれが資格として就職活動やキャリアアップに役立つという側面もある。中には検定試験を受けることそのものが好きだという人もいるかもしれない。どのような動機であれ、合格するためには勉強が必要であり、一般に検定試験は日本全国や全世界で共通の試験がされているので、単に大学の授業の単位が取れたというのとは違う達成感も得られるので、ぜひ積極的に挑戦して欲しい。

残念ながらフランス語には英語ほど多種多様な検定試験はないが、3つの主要な検定試験がある。それぞれを簡単に紹介していこう。いずれも詳しくはそれぞれのホームページを参照していただきたい。

1) 文部科学省認定 実用フランス語技能検定試験
ホームページ: <http://www.jade.dti.ne.jp/~apef/dapf.htm>

日本でフランス語検定試験といえばこの試験が最も代表的である。通称「仏検(ふつけん)」と呼ばれている。1981年に始まり、既に20年以上の歴史がある。現在は5級～2級、準1級、1級の6つのレベルで試験が春(6月末)と秋(11月末)の年2回おこなわれている。ただし、準1級は春のみ、1級は秋のみ実施されている。

フランス語が第一外国語の学生なら卒業までに2級、第二外国語の学生なら3級合格を目指そう。3級までは大学の授業をまじめに受けていれば合格できる。2級はそれだけでは不十分だ。特に聞き取りと書き取りに毎年苦勞するので、たくさんフランス語を聞くことが重要だが、面接対策も含めて多くの

フランス語を暗唱するのが効果的である。各級の内容とレベルは以下の通りである。

2級: 日常生活や普通の職場で必要なフランス語を理解し、特に口頭で表現できるレベル。想定学習時間は400時間以上(4年制大学のフランス語専門課程4年程度で、読む力ばかりでなく、聞き、話し、ある程度書く力も要求される)。

3級: 基本的なフランス語を理解し、簡単なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができるレベル。想定学習時間は200時間以上(大学の2年終了程度)。

4級: 基本的なフランス語を理解し、平易なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができるレベル。想定学習時間は100時間以上(大学の1年終了程度)。

なお、豊橋校舎ではここ数年、春・秋とも仏検の準会場として開放している。通いながれた校舎で受験できるのでぜひ活用していただきたい。

2) フランス文部省認定 フランス語資格試験

Diplôme d'études en langue française (DELF)

Diplôme approfondi de langue française (DALF)

ホームページ: <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/cestmika/>

フランス文部省が世界各国のフランス語学習者の水準の統一を図るために1986年から始めた世界規模の検定試験である。日本では1991年から実施されていて、全世界では130以上の国で実施されている。フランス本国のみならず、フランス語圏においても留学や就労ビザ取得のためのパスポートとなっている。DALFに合格すれば留学に当たってフランス語力評価試験を免除してもらえたり、就労ビザ取得にも有効と言われている。日本国内の大学の中でもフランス語圏への留学の条件の一つとしてDELFやDALFの受験を課すところが増えてきたようだ。この試験の難点は受験機会が少なく(DELFは年2回だが、DALFは1回)受験会場も限られていること(東海地方では名古屋のアリانس・フランセーズのみ)受験方法がいささか込み入っている点である。とはいえ、仏検に較べると世界規模で通用する資格である点は最大の魅力である。

3) パリ商工会議所 フランス語能力認定試験

Test d'évaluation de français (TEF)

ホームページ: <http://www.tef-jp.com/>

TEF (テフと発音する) はパリ商工会議所が実施しているだけあって、実践的であることが最大の特徴である。仏検 2 級くらいのレベルだと言われているが、即答を要求される問題が多いので、合格するためにはかなり入念な準備が必要である。試験終了後 1 ヶ月ほどで成績証明書が送られてきて、フランス語能力の公的な証明書として利用可能なので、特にフランスで働きたい場合には有効な資格である。受験生の声から判断すると、おおむね仏検の 2 級程度の難易度のようなのである。この試験は年に三回実施されているが、三回とも実施されているのは東京会場だけで、東海地方では名古屋 YMCA 学院と名古屋外国語大学を会場にして 2002 年度では 3 月に既に実施済みである。

何かと英語ばかりが目立がちだが、いまや英語は出来て当たり前で就職活動で語学力をアピールしたいのであれば、TOEIC や TOEFL でのハイスコアと同時に、フランス語検定も 2 級を持っています！と胸を張れるようにがんばろう！



検定試験に挑戦 — 中国語 —

国際コミュニケーション学部

塩山正純

1、はじめに

中国語は大学に入ってから始めて本格的に勉強するというのが多くの皆さんにとって実情です。1 年生なら入門や基礎中国語を 1 セメ勉強して、やや感じもつかめたことでしょう。未修外国語は、英語のように中高の 6 年間で絶望的な差がついているわけではありませんから、クラスの仲間で競争もできますし、いまから勉強した分だけ力が伸びるのも実感しやすいと思います。上位年次の皆さんなら、いままでに習ったテキストの本文だけでも相当量になります。ちょっと勉強をして、「腕に覚え」あるようになると、自分がどれくらいの力をつけたのか、試してみたくなるものです。「じゃあ、検定でも受けてみるか」ということになるのですが、実際に皆さんが受験できる検定試験にはどんなものがあるでしょうか。

2、日本で受けられる検定

いま、日本国内にいて受験できる中国語の検定試験で、皆さんにとって最もなじみのあると思われる 3 つの検定試験について紹介しましょう。

まずは中国語検定。略して中検は年に 3 回、6 月、11 月、3 月に試験があります(但し、1 級は 11 月のみ)。英検や仏検、独検と同様、級別に分かれて受験します。ある程度、自分の力量を見定めてから、たとえば 4 級から 3 級へと順順に挑戦するというスタイルです。

中国語コミュニケーション能力検定試験、略して TECC は、1000 点満点のスコア式で、試験は夏と冬の年 2 回です。級別ではなくて、スコア形式ですから色々なレベルの問題が含まれます。短時間で、問題をどんどん解いていく感じで、いわゆる中国語の瞬発力を必要とする試験だと言えるでしょう。

HSKは漢語水平考試(Hanyu Shuiping Kaoshi)の頭文字から名づけられたものです。中国の教育部(日本の文部科学省に相当)による中国語を母国語としない学習者のための中国語能力国家試験です。ヒアリング、文法、読解、総合問題からなり、TECCと同じくスコア形式です。発音表記を問う問題がありませんから、漢字を「中国語で読めないけれども、書けるし意味もなんとなく分かる」日本人にとっては、スコアの面では西洋人に比べて非常に有利です。言い換えると、日本人の受験者は、厳密には自分の実力を測りにくい面もあるといえます。

3、級が規定する実力

では、それぞれ検定は各級にどんな能力を要求しているのでしょうか。まずは、中検を易しい順にざっと見てみましょう。4級からはヒアリング試験があります。

準4級 大学の1年生前期修了程度

4級 大学の1年生修了程度

3級 大学の2年生修了程度

ここまでが基本段階で、ふだんの授業と予習復習で何とか間に合います。ここからさきが上級です。

準2級

常用語3000以上を完全マスター。やや高度の中国語を読み、3級程度の文章を書ける。一般的な文章の翻訳、日常的話題で中国語の会話ができる。

2級

中国語文法の全般的事項をマスターし、社会生活に必要な中国語を基本的に習得。新聞・雑誌・文学作品・実用文の中国語訳、日本語訳、簡単な通訳ができる。

1級

日中両国語を自在に操れるレベルで、超難関。

つぎに、TECCで測定する能力は、「コミュニケーションをおこなう際に、中国語をつかっていかに意思疎通ができるか、実践的な中国語の運用能力」のレベルです。スコアは1000点満点で、6つのレベルに分けています。

A 900～1000 専門家レベル

B	700～899	海外で活躍
C	550～699	仕事で使える
D	400～549	簡単な日常会話
E	250～399	挨拶レベルから卒業
F	0～249	はじめの一步

HSKもスコア形式で易しい順に1級から8級、詳細は違いますが、基本的には同じようなスタイルです。詳しくは、それぞれのホームページや案内で確かめてみましょう。

4、ホームページで情報入手

各検定にはホームページがあり、いろいろな情報を提供しています。試験日時や、検定料、過去問の解答や解説、試験対策本や関連図書の紹介など、必要な最新情報はほとんどここから得ることができます。まずはちょっと暇があるときに情報センターや図書館のパソコンでのぞいて見ましょう。アドレスはそれぞれ以下の通りです。

中検(中国語検定)

<http://www.chuken.gr.jp/>

TECC(中国語コミュニケーション能力検定試験)

<http://career.benesse.co.jp/tecc/>

HSK(漢語水平考試)

<http://www.jyda-ie.or.jp/hsk/top.htm>

また、案内本や対策本などからも情報は得られます。LL教室や図書館、書店の棚にもたくさん並んでいますから、パソコン嫌いの人は、ぜひ手にとりてざっとながめてみましょう。

5、就職や履歴書、留学

4年生になると就職活動のとき、履歴書に「何級」と書きたいひともいます。各検定のレベルで紹介したように、書くとしたら、やはり中検なら準2級、TECCなら「C」レベル、HSKなら7級くらいでしょうか。留学帰りの人ならもう少し上の方が格好良いかもしれません。

留学を予定しているひとは、中国滞在中に必ずHSKに挑戦しましょう。日本で受けるより手軽で、毎日勉強しているのも中国語、そして何より、どっぷりと中国語の世界に漬かって生活しているのでヒ

アリングが断然有利、よりよいスコアが期待できます。そして、「もうお腹いっぱい」というくらい勉強して帰国したら、つぎは満腹感の消えないうちに、中検の2級や、TECCを受験することです。中国語の余韻が残っているうちがベスト。時間が経ってしまうと力を維持するのが大変です。

6、日ごろの学習と試験対策

中検なら、1年生の秋学期に4級、2年生なら、ちょっと背伸びして3級を目標にしましょう。発音問題の割合も大きいので、日ごろからピンインの暗記はくれぐれも疎かにしてはいけません。「文法問題はできたのに」なんて人もたくさんいます。準2級や2級は、ちょっと、いや、かなり難しくなり、教科書や過去問だけで太刀打ちはできません。図書館にある中国語の新聞記事を、短いものでいいから毎日少しずつコピーや手書きして、読んでいくとか、小説を1冊決めて読みきるとか。試験を受けるまでには、やはり普段からのコツコツ勉強、何かしらのまとまった学習が必須でしょう。ヒアリングもあなどれません。とくに準2級からは、より自然なスピードになりますから、慣れが必要です。LL教室のテープやビデオを活用すべし、です。筆者が担当している授業では、とくに検定対策はしませんが、皆さんが過去問などを自習して、分からないところがあれば、遠慮なく質問に来てください。中国語担当の先生方も、快く質問に応じてくださるでしょう。

もちろん、試験にはそれぞれクセというか特徴がありますから、慣れておくのが大事です。受験勉強を思い出してみてください。大学受験のときも、赤本なんかで、自分の行きたい大学の過去問を一所懸命に解いたでしょう。これと同じことで、直前にはこういった対策はかなり効果的です。もちろん、対策本ばかりで普段から勉強していたのでは本当の力はつかないでしょうが。

7、さあ、挑戦

級によっては、合格すると図書券で祝ってくれます。なにより、合格は次への大きな励みになります。「思い立ったが吉日」さあ、今日から目標を決めて、合格目指してがんばりましょう。

ロシア語検定について

経済学部

清水伸子

ロシア語関係の試験というと、国土交通省が実施している通訳案内業試験（ガイド試験）と、東京ロシア語学院が実施しているロシア語能力検定試験（1級～4級）がある。

通訳案内業試験（ガイド試験）とは、各都道府県知事から通訳免許の発行を受けるために必ず受けなければならない試験であり、ロシア語以外の8カ国語についても行われている。試験は1次試験から3次試験までに分かれており、1次試験が当該外国語の筆記試験、2次試験が当該外国語による口述試験、3次試験は日本地理・歴史・政治・経済・文化に関する一般常識を問う試験となっている。ガイド試験の合格率は、各言語によってばらつきがあるが例年5%～15%程度である。難易度の点からいって、大学生がいきなり目指す試験とは言いがたいが、語学好きの人はガイド試験を最終目標において勉強を続けていくことも励みとなって良いかも知れない。（詳しくは、<http://www.jnto.go.jp/info/>を見てください。）

ロシア語能力検定試験を実施しているのは、東京ロシア語学院という日本で唯一のロシア語教育専門学校であり、学院自体は本科（昼間部3年生、夜間部2年生）や通信教育科などのカリキュラムを持ったコースを開設し、ロシア語教育には長年の実績がある。年に一度の検定試験も2001年度で既に45回を数えている。数年前からロシア語検定試験の過去の問題、解答、講評を公開しているが、各レベルの試験はそれぞれ非常に良く考えられた問題を作成している。

まず、ロシア語検定試験の大きな特徴としては、4級から1級に至る全てのレベルの試験で必ず口述を課すという点が挙げられる。日本で行われる他の語学の検定試験は、とかく初歩のレベルの試験では、ヒアリング試験を課しながらも、基本的にはペーパー

試験の形式で学習到達度をはかる試験が多い。ロシア語検定試験4級ではアクセント記号を付けたテキストを朗読させ、3級ではアクセント記号の無いテキストを朗読させる。2級と1級ではテーマを与えてのスピーチを課している。(3級、2級、1級ではヒヤリング試験も別途課される。)これは、語学とはスポーツと同じく、頭で理解するだけでは不十分であり、実際に使用することができ、かつその際の発音や文法の正確さも見るという総合的な力を計る出題形式である。見れば意味は理解できる簡単なテキストであっても、いざ朗読となるとリズム良く読めないものである。学院の試験の講評にも、文法問題の正解率は高くても口述の出来は良くないとの指摘がある。学習したテキストは絶えず音読をするとか、ラジオ講座を聞きながらテキストを見ずに繰り返すといった練習をすると効果的である。

ロシア語作文や和文ロシア語訳については、4級は自己紹介や日常表現を中心とする決り文句を中心とする出題で、3級は大学2年生の後期に読む程度のテキスト訳や作文の出題である。対策としては、大学2年生で使うテキストの音読やディクテーションなどが効果的である。教材付属のテープを使って一度学習したテキストのディクテーションを行う方法は、作文練習には効果がある。単語や文型を覚え

ていないと聞き取れないし、文法事項を正確に把握していないと正しく聞き取れないからである。

以上述べてきたもの以外に文法問題が出題される。4級では名詞の性の区別、複数形の作り方、名詞と形容詞の格変化(選択肢)、動詞の規則変化と「住む」「望む」などの基本的な不規則変化動詞の活用をおさえておかなければならない。3級では、名詞と形容詞を自分で正しく変化させられるレベルを要求され、かつ、関係代名詞、比較表現、用法や活用に気をつけなければならない運動や移動を表す動詞、命令形、数詞に関する事項についての出題がある。2級では、長文問題という形で出題することにより、4級・3級レベルの文法理解度や語彙数などから総合的なロシア語の力を判断しつつ、形容詞短語尾、動詞の体の選択についての出題が課される。最も難しい1級は、動詞の体についての2級よりも細かい事項や形動詞について出題されている。(試験についての詳しい情報は、<http://www.t3.rim.or.jp/~tokyorus/>を見てください。)

ロシア語検定試験を実施している東京ロシア学院は過去の問題と共になりに詳しい講評を公開している。3号館LL自習室には1995年度からの過去の問題があるので、過去数年分の問題を解いてから検定試験に臨むことをお勧めする。



「ハングル能力検定試験」 案内

法学部

常石希望

【一】「ハングル能力検定試験」は1992年秋に開始された。今年ですでに11年目をむかえ、本年6月の検定試験が第18回目だった。現在は6月と11月、年2回実施されており、全国9カ所に試験会場が設けられ、中部地域では名古屋市で受験できる(例えば、前回・名古屋YMCA、今回・同朋大)。すでに愛知大学からも、準2級、3級、4級、5級に多数の合格者を輩出している。

【二】前回第17回目までの各「級わけ」とその概要をとりまとめると、以下のごとくなるであろう。

1級.....きわめて難解。合格者は毎回5名以内程で、特殊な言語環境を経ている者が多い。つまり合格者の多くはいわゆるバイリンガリスト環境を早くから体験。出題者の先生でも「自分は受からないだろう」と公言する程のレベル。

2級.....留学経験者でも、その後かなりの準備と学習を加えないと難しい。

準2級.....留学経験者が多少の準備をして合格できるレベル。あるいは留学未経験者でも、3~4年間のかなりの集中学習者なら合格可。

3級.....大学での韓国・朝鮮語を2年間熱心に学習したのち、半年~1年間準備して合格できるレベル。

4級.....大学での2年間の勉強に加え、独学で多少の構文・単語を補って合格可。

5級.....2年間の大学講義の途中でも、いわゆる“過去問”分析を行って合格可。

ところが、今回第18回目('02、6月)からは新しく「準1級」が追加された。上述のごとく「1級」が余りにも難しいのが、その理由だと思われる。このために、従来の2級や準2級のランクが影響を受けて易くなるのか否かについては、近々公刊される『第18回、ハングル能力検定試験、問題と解答』

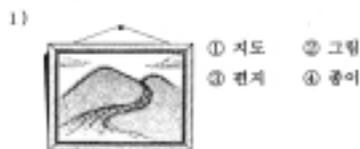
を分析するまでは明らかではない。

【三】以上から分かるように、愛大生の諸君にすすめたいのは5級~3級である。まず5級を韓国・朝鮮語受講中の2年次に受け、講義を終えて4級を、さらに勉強して3年次の秋に3級を「目標」として掲げて欲しい。大学生のうちに合格できる最高段階は3級だと思って、やってみて欲しい(ただし姉妹校、中央大学校交替留学経験者は、当然準2級、2級が目標となる)。

参考のため、最近の5級の問題を下に示してみたい。おそらく、韓国の幼稚園の子供達でも正解しうるレベルなので、恐れず是非チャレンジしてみたい。

5級 筆記問題 (60分)

1 次の絵と一致する単語を①~④の中から一つ選び、その番号にしろしをつけなさい。



【四】「語研」(3号館、1階)に行けば、いわゆる「過去問」を揃えているので、これを十分に分析してほしい。正式名称『ハングル能力検定試験、問題と解答』ハングル能力検定協会刊)

ただし注意していただきたいのは「ハングル能力検定試験」と「韓国語能力検定試験」を混同しないこと。一般に英検や独検などと並んで、日本で社会的に認定されるのは、前者「ハングル能力検定試験」の方であり、こちらを受験して欲しい。後者は韓国で主催・制作されているものであって、残念ながらこれに合格しても日本社会での一般的認定が得られるまでには至っていない。

それ行け!! タイ語検定

国際コミュニケーション学部

加 納 寛

せっかく一生懸命勉強したなら、大学外でも使える資格をとっておきたいよね。そこでお勧めするのが「タイ語検定」。ここでは、日本国内の試験を中心に紹介し、少しタイでの試験にもふれておきたいと思います。

1. JTECSタイ語検定試験

日本国内のタイ語検定を運営しているのが、日タイ経済協力協会(JTECS)です。日本における民間タイ語教育では、輝かしい歴史をもつ定評のある法人です。本学にも一時ご出講いただいた水野潔先生が主任講師をつとめていらっしゃいます。

JTECSのタイ語検定は1994年に始まり、年間2回(5月、11月)現在までに16回実施されています。

試験会場はそれほど多くないのですが(恒常的な会場は3ヶ所のみ)、何と(!!)名古屋会場も毎回開設されるので、愛大生にとっては有利です(東京まで行かなくてよい!!)。名古屋会場は、名古屋駅前ですから、交通も至便です。

試験のレベルは、1級から5級まであります。それぞれの認定基準は次のとおりです(JTECSタイ語検定試験案内より抜粋)。

【1級】極めて高度なタイ語運用能力を有し、新聞の政治・経済面、一般文献なども読みこなし、会議通訳、一般翻訳などができること。

【2級】社会生活に必要なタイ語を正確な発音で使いこなすことができる。新聞や雑誌の社会面を読み、訳すことができること。一般通訳、翻訳に不自由しないこと。

【3級】日常会話および新聞や雑誌の一般記事(特に専門用語を含まないもの)などの大意をつかむのに必要な文法・語彙を有しており、正しい発音ができること。常用単語の読み書き、および文章の聴き取り、組み立てができること。

【4級】一般的文法を理解し表現できること。基本単語の読み、およびごく初歩的な会話・文章の聴き取りができること。語彙数2000程度。

単語参考書として『実用タイ語会話1』(泰日経済技術振興協会 編)

【5級】基本的文法を理解し、表現できること。初級単語の読み、およびごく初歩的な会話・文章の聴き取りができること。語彙数約500。

文法・単語参考書として『CDエクスプレス・タイ語』(白水社)

1級保持者はまだ出現していないとか…。タイ語検定自体が新しいので、現在活躍中のタイ語教員や通訳者・翻訳者のほとんどはタイ語検定を受験していないのです。でも、現在学習中の皆さんには、目に見える学習成果の指標として、ぜひ受験していただきたいと思います。

2級は、試験が1年1回しか実施されません。大量のタイ文をナチュラルなスピードで読解していく能力が必要になります。

3級を取得すれば、就職などでもかなり認められるでしょう。本学でタイ語を学習する皆さんには、ぜひこの3級を目標にがんばっていただきたいものです。本学の2学年までの授業で、3級の認定基準まではカバーしているつもりです。授業に積極的に取り組み、予習・復習を怠りなくすれば、3級は自然に射程圏内に入ってくると思います(ま、射程圏内と合格圏内とは違うんだけどね…。単語も授業外の学習で増やしておく必要があるし、大学図書館で購読している新聞や雑誌にも日常的に目を通す習慣をつけるとよいでしょう)。

4級は、実務でタイ語を使用したい場合には、最低限もってほしいレベルです。2学年時の秋に取得

するのを目標にしてほしいと思います(「目標」ですからね…。達成できなかったら3学年時の春でも秋でもいいんですよ。とにかく努力を続けることが重要です。できれば就職活動始める前までに取得したいですね)。

5級は、2学年時の春の取得を目指してほしいものです。そしてさらに上級を狙うステップにしてほしいものです。ま、5級でも、就職活動時に資格欄に書いておけば、きっと輝くはず。面接時の話題くらいには使えるかもね(「第2外国語」として勉強したなら、4級以上を目指してほしいのですが)。

試験前の対策ですが、まずは過去問を手に入れるのが早道です。出題の傾向を把握することができるからです。過去問は、語学自習室で閲覧可能です。語学自習室には聴解問題練習用のテープも備え付けてありますが、実際の検定試験ではもっと速いスピードで読まれるようですから、テープの勉強だけで安心してはいけません。

単語については、水野潔先生の『タイ語基本単語2000』(語研、1989)をお勧めします。何といても暗記するのに手頃な単語数ですし、タイ語検定で出題される単語も、網羅されています。5級レベルでは、まずタイ語を見てすぐに対応する日本語を口にする練習をするとよいでしょう。4級レベルでは、日本語を見てタイ語を口にする練習を、3級レベルでは日本語を見てタイ語を書き取る練習をするとよいと思います。1週間1サイクルで練習し、5サイクルも勉強すれば、すぐく自信がきます。

この他、本学「タイ研究会」では、検定試験前に毎回学習会を開いています。こうした機会を積極的に利用するとよいでしょう。

2. タイ文部省検定試験

タイ国内のタイ語検定としては、「ポー・ホック」と呼ばれるタイ国文部省実施の試験があります。タイの「私立学校法」に基づき、タイ国内の私立学校の教員になりたい外国人のために作られている試験です。「ポー・ホック」とは、タイ語で小学6年生を意味します。この試験に合格すれば、タイの小学

6年修了者と同程度のタイ語能力を持つ、と認定されます。

公的資格が大好きな日本人に人気で、受験者のほとんどが日本人であるということです。もちろん、バンコクにある日本人学校(タイ国内では「私立学校」扱い)の先生には、この試験に合格することが義務付けられています。日本社会での実用性から言えば、レベルの面から見ても「ポー・ホック」試験よりJTECSタイ語検定試験を目指した方がよいと思いますが、機会があれば両方取得しておくのもよいでしょう(資格をもっていても邪魔にはならないでしょう。機会があれば、ですが)。

試験の内容は、1)朗読、2)記述(作文)、3)聴解・読解、4)手紙記述です。一見すると難しくそうですが、要は試験対策用の勉強です。タイにある民間語学学校では、この試験に向けての講座を数多く用意しているので、そうした講座で試験対策をすれば、それほど苦勞なく合格するでしょう。本学で1年も勉強して基礎を身に付けておれば、あとはこうした講座にでも行けば難なく突破できると思います。留学希望の学生には簡単すぎるでしょう。

さて、以上、タイ語検定試験について概観してきました。ヤルキが湧いてきたかな? 最後に言っておきたいのは、「検定のためのカネを惜しむな!!」です。これはタイ語だけの話ではありません。「TOEFL受けたいけどおカネがチョットネ…」なんて言っている学生さんをよく見ます。そんなことを言っているのは、いつまでたってもスタート・ラインにすらつけないよ!! 「まだ実力がないから…」というのも同じです。思い切れ!! 飛び込め!! まずは試験を受けてみることで!!

LLニュース今号には、見事4級に合格した脇谷優美学生の「タイ語検定試験に挑戦」も掲載されています。参考にしてね!!

さあ、がんばって、タイ語検定3級をめざそう!!
オー!!

外国語としての日本語 関連試験

経済学部

田中衛子

はじめに

日本語試験は、日本語が母語ではない人が、外国語として受けるものはあるが、英語やその他の外国語のような「検定試験」と呼ばれるものはなく、いくつかの「能力試験」と呼ばれるものがある。代表的な試験は「日本語能力試験」である。これよりレベルの高いものには、「ジェトロビジネス日本語能力テスト」がある。このほかに、平成14年度から正式に実施される「日本留学試験」があるが、これは日本の大学に入学を希望する人たちが、事前に受けるものなので、ここでは取り上げない。

上記の試験は日本語学習者を対象にしたものだが、これらのほかに、日本語を外国語として教えること、つまり「日本語教育」を志す人たちを対象にした「日本語教育能力検定試験」がある。

個々については、以下に詳しく記す。

1. 「日本語能力試験」

これが日本語関連試験の中の代表的なものだということは前述した。これは、1983年に中曽根内閣が「留学生10万人受け入れ計画」を発表した翌年、1984年度から実施された最初の「日本語試験」である。以来、日本語を母語としない人を対象に、日本国内だけでなく国外においても実施され、日本語能力を測定し、認定してきている。

試験は1級から4級に分けられていて、そのうち、1級と2級は、日本の大学の私費留学生の入学選考に利用されている。試験の構成と認定基準は、〈表1〉の通りである。

可否は各級毎に判定され、合格者には「日本語能

試験の構成及び認定基準 〈表1〉

級	構 成		認 定 基 準	
	類別	時間		配点
1	文字・語彙	45分	100点	高度の文法・漢字(2,000文字程度)・語彙(10,000語程度)を習得し、社会生活をする上で必要であるとともに、大学における学習・研究の基礎としても役立つような、総合的な日本語能力(日本語を900時間程度学習したレベル)
	聴 解	45分	100点	
	読解・文法	90分	200点	
	計	180分	400点	
2	文字・語彙	35分	100点	やや高度の文法・漢字(1,000字程度)・語彙(6,000語程度)を習得し、一般的なことがらについて、会話ができ、読み書きできる能力(日本語を600時間程度学習し、中級日本語コースを修了したレベル)
	聴 解	40分	100点	
	読解・文法	70分	200点	
	計	145分	400点	
3	文字・語彙	35分	100点	基本的な文法・漢字(300字程度)・語彙(1,500語程度)を習得し、日常生活に役立つ会話ができ、簡単な文章が読み書きできる能力(日本語を300時間程度学習し、初級日本語コースを修了したレベル)
	聴 解	35分	100点	
	読解・文法	70分	200点	
	計	140分	400点	
4	文字・語彙	25分	100点	初歩的な文法・漢字(100語程度)・語彙(800語程度)を習得し、簡単な会話ができて、平易な文、又は短い文章が読み書きできる能力(日本語を150時間程度学習し、初級日本語コース前半を修了したレベル)
	聴 解	25分	100点	
	読解・文法	50分	200点	
	計	100分	400点	

力認定書」が交付される。判定基準は、1級は合計得点の70%以上、2級以下は60%以上得点すれば合格としている。

2. 「ジェトロビジネス日本語能力テスト」

この試験も、日本語を母語としない人を対象としており、1996年から実施されている。名称が示す通り、ジェトロつまり日本貿易振興会が主催し、関連の政府機関が協力や後援をしているものである。

テストは「聴読解テスト」(JLRT)と「オーラル・コミュニケーション・テスト」(JOCT)に分けられている。レベルは、JLRTには3段階あり、難しい順にレベルI、レベルII、レベルIIIである。JOCTには、レベルが6段階ある。A+、A、B+、B、C、Dである。

JLRTは、与えられたビジネス上の課題を処理する総合的な技能を測るテストで、文法の知識や語彙の多少を測るのが目的ではない。主に日本語の聞き取りと読解能力を測定・評価するのである。このテストのレベルIの合格者だけが、次のオーラル・コミュニケーション・テストを受験することができる。

JOCTは、質疑応答とロールプレイによって、口頭による話す能力を測定・評価する。これでは「レベルA」を「通常のビジネスや仕事の場面において、

日本語によるコミュニケーション能力を持つ」と規定して、認定の基準としている。

JLRT合格者およびJOCT認定者には、それぞれ日本貿易振興会（ジェトロ）の公式「認定書」が与えられる。なお、JOCTの「レベルA」と認定された人は、1996年の第1回のテスト以来、2001年の認定者を含めて145名である。

3. 「日本語教育能力検定試験」

1. と2. が「能力試験」であるのに対して、これは「能力検定試験」である。この試験は、日本語教師になるために学習している人や、現に日本語教師として教育に携っている人たちを対象としていて、それぞれの知識や能力が、日本語教育（国語教育ではない）の専門家として必要とされる水準に達しているかどうかを検定することを目的にしている。合格すれば免許が与えられるというものではない。

受験資格は、試験実施年度の4月1日の年齢が満20歳以上であることで、学歴は問われない。試験の内容と水準は〈表2〉の通りで、つまり、日本語教師として最低限必要な専門的知識・能力を習得させることを目的とする大学の学部における日本語教員養成副専攻課程と同等程度としている。

試験時間は、「筆記試験Ⅰ」140分、「筆記試験Ⅱ」

100分、「聴解試験」30分である。

なお、この試験は1987年度から開始されたものだが、当初の目的の一つに、日本語を母語とする人ならだれでも日本語が教えられるわけではないことを知らしめるということがあった。日本人が特に考えずに表現していることを、すべて論理的に説明できなければならないのである。日本語や日本語教育に対する、深く広い知識が必要とされるわけだ。

前述したように、この検定試験に合格しても、日本語教師としての免許が得られるのではないが、合格することが、日本語教育の専門家になるための第一歩を記すという意義がある検定試験である。

4. 試験実施機関など

1) 「日本語能力試験」

a. 国内：

財団法人日本国際教育協会事業部試験課
〒158-8503 東京都目黒区駒場4-5-29
電話：03-5454-5215 FAX：03-5454-5235

b. 国外：

国際交流基金日本研究部企画開発課
（現地機関の協力を得て実施する。）

2) 「ジェトロビジネス日本語能力テスト」

日本貿易振興会国際交流部ジェトロテスト事務局
〒105-8466 東京都港区虎ノ門2-2-5
電話：03-3587-1143 FAX：03-5563-2857

3) 「日本語教育能力検定試験」

財団法人日本国際教育協会 日本語教育能力検定試験係
〒158-8503 東京都目黒区駒場4-5-29
電話：03-5454-5215 FAX：03-5454-5235

日本語教員養成のための標準的な教育内容〈表2〉

区 分	一般の日本語教員養成機関	大学の学部(日本語教育)		大学院修士課程		科目名例示
		副専攻	主専攻	Aコース	Bコース	
1-(1) 日本語の構造に関する体系的、具体的な知識	150時間	10単位	18単位	4単位	11単位	日本語学(概論、音声、語彙、意味、文法、文体、文字、表記)
1-(2) 日本人の言語生活等に関する知識・能力	30時間	2単位	4単位	4単位	2単位	言語生活、日本語史
2 日本事情	15時間	1単位	4単位			日本事情
3 言語学的知識・能力	60時間	4単位	8単位	7単位	5単位	言語学概論、社会言語学、対照言語学、日本語史
4 日本語の教授に関する知識・能力	165時間	9単位	11単位	9単位	10単位	日本語教授法、日本語教育教材、教員論評画法、実習
合 計	420時間	26単位	45単位	24単位	28単位	

(備考)

- 上記の知識・能力の他に表現・理解力等の日本語能力、外国語に関する知識・能力、世界の諸地域に関する知識の習得を図る必要がある。なお、日本事情には学習者の背景により古典及び文芸を含み得る。
- 大学院修士課程のAコースは、大学の学部における日本語教員養成の主専攻を修了した者を、Bコースはそれ以外の者を対象としている。
- 一般の日本語教員養成機関の授業時数は、大学の学部における副専攻課程の1単位を15時間とし、実習については45時間として算出したものである。

おわりに

本稿では、標題の「外国語としての日本語関連試験」の中の代表的なものを3種取り上げて記した。つまり、これらは、挑戦するのに値するものである。合格すればそれぞれ、別の立場から日本語の学習にとり組んでいる外国人、日本人の将来の飛躍に、直接結びつく意義深いものである。

学習者の人たちの挑戦を期待している。

一勝一敗の「ハングル」 能力検定

経営学部

田川 光 照

サッカー・ワールドカップでの韓国チームの活躍は、おおかたの予想を覆す目覚ましいものであった。昨日の第3位決定戦ではロスタイムに得点し、最後の粘りを見せた。また、サッカーを通しての韓国国民の熱狂ぶり、そのナショナリズムにはついていけない部分があるものの、あのエネルギーには驚嘆させられる。

その第3位決定戦の前日、つまり一昨日、6月9日に初めて受検した「ハングル」能力検定試験の成績通知票が届いた。結果は予想通りの1勝1敗、3級は合格、準2級は不合格であった。予想通りというのは、受験の1週間前に過去の問題をやってみて、3級は確実に合格できると確信する一方で、準2級の受検については、「しまった、受験料5000円を捨てたも同然だ。もっと前に過去問をやっていたら、受験申し込みをしなかったのに」と後悔したからである。とうてい合格できる点数ではない。とはいえ、「ハングル」能力検定は今回から大幅に手直しされたので、「もしかすると準2級も」という甘い期待をもって受験したのであった。

その手直しというのは、準1級が新設されたうえ、準2級が従来の筆記50点、聞き取り50点の計100点満点で合格点70点から、筆記90点、聞き取り60点の計150点満点で合格点110点に、3級が従来の筆記60点、聞き取り40点の計100点満点で合格点70点から、内訳と満点は変わらないものの合格点が60点に変更されたことである。この手直しは合格者増を狙ったものと見た。韓国・朝鮮語の学習者の増加傾向にワールドカップの影響から拍車がかかると予想されることなどから、従来難しい目であった検定内容を変更して、合格者を出しやすくするための手直しであろうと推測したのである。実際、午前中にあった3級の試験後には、「やさしかった」という言葉が

受験者の間で交わされていた。昼食時に、3級の合格を確信していたのでよほどビールでも飲もうかと思っただが、さすがに午後の準2級受験のことを考えて、それはやめた。飲むとトイレが近くなるので……。結果は、3級が筆記58点(1問間違えた。)、聞き取り31点の計89点で合格、準2級が筆記70点、聞き取り35点の計105点で不合格(合格点に5点不足。)/であった。

約2年半前に韓国語を勉強しはじめた時に立てた基本方針は、パソコンを最大限利用するというのであった。そのために、ポータブルMP3プレーヤーを購入した。音声教材(カセット、CD)をいったんパソコンに取り込み、それをMP3に変換してプレーヤーにダウンロードする。そして、それを持ち歩き、通勤時などに繰り返し聞くことにしたのである。ポータブルMDプレーヤーでもよかったのであるが、MP3プレーヤーを選んだのは、小型軽量であること、ディスクを回転させてデータを読み取るのではなくメモリから読み取るために振動に強く、音飛びすることはまずないということ、また音声教材をいったんパソコンに取り込むため、編集が簡単であること(とくにカセットの場合に有効で、取り込んだデータを單元ごとに分割したファイルを作り、タイトルを付けることで勉強しやすくなる)などがその理由である。

また、勉強が進むにつれて、インターネット経由で韓国のKBS放送のテレビやラジオを視聴しはじめた。ただし、ライブでいくら聞いても分かるようにはならない。そこで最近はじめたのは、オンデマンドで提供されている放送後のクリップを視聴することである。KBS放送では、テレビのニュース番組を話題ごとに分割したクリップ(一つのクリップは1分前後)とともに、そのスクリプトもWebページ上で公開している。私は、スクリプトを印刷し、クリップを再生してハードディスクに録音したうえで上述のMP3プレーヤーに入れて、何度も音読しては聞き直すという勉強方法をとっている。もうひとつ、KBS放送でおもしろいのは、「ラジオ読書室」というラジオドラマ番組(1回約45分)の放送済みのクリップをシナリオとともに公開していることである。

これもMPSプレーヤーに入れているが、さすがにこれは難しい。シナリオを読むこと自体が、ニュースのスク립トを読むよりもはるかに難しいのである。しかし、今後はこれに本気でとりかかろうと思っている。この場合、聞くこともさることながら、むしろ読解力の養成に役立つと思う。ラジオドラマには、ニュースには現れない比喻表現など多様な表現や語彙が登場し、また正確に読む必要があるからである。

ともかく、韓国語を勉強しはじめての約2年半、聞くことに重点を置いてきた。韓国語は、私が教えているフランス語に比べても音の変化がはるかに多様で激しい。そもそも韓国語がおもしろいと思ったのは、この点であった。そこで、聞くことと発音(発音できなければ聞き取れない)に勉強の少なくとも80%は割いてきた。それで3級の31点、準2級の35点は寂しい。ようは単語力の問題であると思う。これは筆記についても同様であり、たとえば、準2級の問題で「たまごは12分程度茹でて、冷水につけてから皮を剥きます」の下線部を韓国・朝鮮語に訳せというのがあった。「(たまごの)皮」をどうなのか、「剥く」をどうなのか、皆目見当もつかなかった。単語集を使って勉強するといったやり方もあるが、私としては検定を自己目的化した勉強はする気がしないので、とくに検定を意識するのではなく、なるべくたくさんの文章を読み、その中で徐々に単語力を増強していくつもりである。時間はかかるが、確実に身に付ける方法はこれしかないと思っている。

いずれにしても、準2級にはあと1歩であることがはっきりした。次回(11月10日)には準2級突破だ～!

(2002年6月30日記)



英語検定

国際コミュニケーション学部 4年

田村香澄

大学へ入学して以来、特に力をいれて取り組んだ英語の試験として、TOEFLがあります。留学しようと考えている方は聞いたことのある試験だと思いますが、アメリカの大学へ入るためには、この試験で最低500点(CBT173)を取ることが必要とされています。大学の提携校であるアメリカのSoutheast Missouri State Univ.への留学を希望していたことがきっかけで、私は、TOEFLの勉強を始めました。また、TOEFLでの目標点数を達成した時期には、単語力やリーディング、リスニングにもある程度の自信が付いていたのでTOEICや英検も受験しました。私の場合はTOEFLのための勉強をしており、TOEICや英検の為の勉強はしませんでした。TOEFLでの勉強を他のテストにも生かすことができました。それぞれのテストでのコツなど、多少違いはありますが、共通した点が多くあると思うので、留学に必要なTOEFLや就職に有利なTOEIC、英検を力が付いている同時期に受験することも良いと思います。幅広い単語力とある程度のスピードの英語を聞き取ることを要求されるこのテストで目標の点数をクリアするには、それなりの時間をその勉強に費やす必要がありますが、私がこれらの検定試験を受験して感じたことや、その勉強方法を少し紹介したいと思います。

○ 数をこなして問題に慣れる

過去問題集を初めとして、数多くの問題集が出版されているので、それらの問題をできるだけ多く解いて、問題に慣れることが大切です。どのテストも毎年同じ形式で問題が出題されるので、その問題形式を把握でき、時間配分を上手くすることに役立ちます。私の場合は、リスニングセクションが苦手だと気づいていたので集中的にその範囲を勉強しました。できるだけたくさんのリスニング問題を聞くために数ヶ月間大学内のLL自習室に通いました。そ

ここでは、検定用の問題集が多くあり、市販の問題集を買う必要はありませんでした。たくさん問題集を購入するには、とてもお金がかかってしまうので、大学にある教材はとても役立ちました。特に、私が使っていた問題集はLONGMANのINTRODUCTORY COURSE FOR THE TOEFL TESTやBARRON'S STUDENT'S #1 CHOICE TOEFL、ETSのTOEFL Practice Tests などです。中でも、ETSはTOEFLやTOEICを行っているテスト機関なので最後の総まとめとして本番のように時間を計ってテスト直前に使っていました。上記の物は、全て日本の出版社から出ているものではないので、解説など全てが英語で書かれています。英語の理解力とテストに対する意識を上げる意味でも役立つと思います。

授業の空き時間や授業が始まる前に1時間など短時間でも毎日、ある程度速いスピードの英語を聞くように心がけていました。それぞれの問題は一度解いてしまうと、答えを覚えてしまうので、できるだけ多くの新しい問題を解くことをお勧めします。しかし、もちろん過去に解いた問題で間違えたものや、分からない単語、フレーズがあったら完璧に覚えていきます。

○ 1つの単語から複数の意味

何か分からない単語に出会った時は、その品詞、意味、例文に目を通し、さらに、その単語に出会った場面での意味だけではなく、他にどんな意味があるのか調べたり派生語に目を通したりしていました。普段よく使っている簡単な単語でも意外な意味があることがあります。また、一つの単語でも品詞が変わることで意味が大きく異なることもあるので、辞書を引く時はじっくりと読むようにしています。また、更に英語に慣れる為に英英辞典を引く事もいいと思います。

地道に分からない単語やフレーズを調べることで語彙力を伸ばしていきました。語彙力やリーディング力を上げる材料としては、英字新聞を読んだり、CNN ENGLISHの雑誌を読んだりしました。

○ スピードに慣れる

テスト中、ただでさえ緊張しているのに、リスニングのスピードに圧倒され頭の中が真っ白、全く内

容が頭に入っていない状況に初めてTOEFLを受験した時、私は陥ってしまったのですが、そういう事にならない為には、上記でも述べたように、ある程度のスピードに慣れておくことが大切だと感じました。私は、CNNニュースを日頃から流したり、NHKや深夜に放送されている海外のドラマをビデオにとって観たりもしていました。初めはほとんど分からなくてもだんだんその速さにも慣れ、途切れ途切れでも何を言ってるのかが分かってくると思います。テレビなら、ひたすらカセットテープに耳を傾けているより楽しく続けられるかもしれません。

最後に全体を通して感じたことは、地道に勉強を継続すること、基礎をしっかり作ることが大切だということです。

英語修得を目指して

国際コミュニケーション学部 3年

鳥 居 潤

アメリカ、海外旅行、映画、そして外国人とのコミュニケーションが好きな僕にとって英語のスキルアップは楽しいことです。そしていつかアメリカで生活することやアメリカ人のジョークが理解できるようになることを夢見て英語学習に励んでいます。よく「英語は体力と同じ」と言われます。いつも英語を使って生活していれば上達するし、使っていなければどんどんと英語力は低下します。僕もそのようないろいろな挫折を経験してきましたが、英語と一緒に勉強する友達がいたおかげで、いろいろと励まされ今も英語修得の目標目指して頑張っています。周りにそのような刺激し合える人達がいることは大切なことだと思います。またどのように勉強をすれば英語をものにできるかを調べました。いろいろな本を読んだところ、まず話せるようになるためには音読がたいへん重要だということが分かりました。そこで僕はNHKのラジオ講座のスキットを声に出し一日20回~30回読むことにしました。覚えるのではなく、口を馴らすためにやるのが大切だそうです。ネイティブの人が話すのと同時にリピートするシャドウウィングもやりました。これらをするこ

とによって自然と口から英語が出てくるようになりました。この方法の成果はとても大きく今も続いています。しかし英語を話せるようになるにはそれだけでは足りません。その練習に加え、実践して使うことが大切です。だから僕は学校にいるアメリカ人の先生のオフィスに会話をするためにいきます。これも会話力をつけるためには重要なことです。

「Practice makes perfect」です。また僕は英語独特の表現や諺を覚えることが好きです。スラングなども覚えて、使うように心掛けています。スラングなどを覚えるには映画で得ることができます。英会話を勉強する上では、映画やアメリカのドラマなどがたいへん重宝します。また最近ではリスニング力をつけるために衛星放送でCNNを毎日見えています。英語もそうですが、今アメリカで何が起きているかを知ることができるので、いつも楽しんで見えています。そこで知らない単語があれば辞書で調べヴォキャブラリーを増やすことに努めています。またインターネットを利用してアメリカのサイトで映画、音楽、スポーツなどの記事を英文で読むようにしています。このようにして出来る限り様々な物を使って英語の環境をつくるように努力しています。

これらの努力の成果を試すために英語検定準一級取得を目指して頑張っています。準一級ともなると英字新聞や英語放送などの情報が的確に把握ができ、一応の通訳や電話の対応ができ、文章も書けなければいけません。また専門的なことに関してもある程度こなせる力が必要です。だから、より多くの単語や熟語が要求されます。英検はTOEICと違い日本だけの英語力を評価する資格ですが、就職活動の時には、英語を使えることを前面に出していきたいと思っていますので是非取っておきたい資格の一つです。もちろん、TOEICにも挑戦して、ハイスコアを取りたいと思っています。しかし僕にとっては資格を取ることが大切なことではありませんが、一番大事なことはコミュニケーションをとることのできる英語を身につけることだと思います。その過程に資格があると思っています。英語を話せるということは自分にとって、視野が広がり、いろいろな国々のことも知ることができるので、これからも英語力のアップを目指して、Take it easyに頑張っていきたいです。

ドイツ語検定

文学部 3年

杉山 ひろみ

私がドイツ語技能検定試験、「独検」を受験したのは大学1年の秋でした。独検は4級から1級までの4段階に分かれており、それぞれの級におよその学習時間のめやすが示されています。まだドイツ語を始めて半年ほどだった私は、まず4級に挑戦することにしました。

私はドイツ文学専攻ですので、毎日ドイツ語を勉強していました。けれど大学の授業は単位制で、試験の答案もほとんど返却されないため自分がどの程度理解でき、どこを間違えたのかよく分かりませんでした。そこで、自分がどの位理解できているのを知りたかったのです。

4級の基準としては、「ドイツ語授業を約60時間受講しているか、これと同じ程度の学習経験があること」とあります。文法と会話の授業を合わせて、週4コマのドイツ語の授業を受けていた私は充分これを満たしていました。

当たり前ですが、学習時間の基準に一応達していたからといって浮かれているわけにはいきません。せっかく受験するなら、しっかり準備して合格しなくてはなりません。それまで毎回の授業の予習しかしていなかった私は焦りました。4級といっても基本的な文法などは確実にする必要があります。何から勉強したら良いか分からなかったので、私はまず過去の問題を解くことから始めました。

独検は1時間の筆記試験の後、20分間の聞き取り試験が行われます。また、1級と2級は1次試験に合格した場合、2次試験といってドイツ語による面接があります。

筆記試験は設問によって、アクセントや短い文章の読解、文中に正しい単語を補う問題などに分かれています。私は特に単語を補う問題が苦手で、接続詞や前置詞を1枚の紙にまとめて何度も読み返しました。また、普段の授業では習っていない単語も多

く、何度も問題を解くうちによく使われる単語を書き出して覚えていきました。

しかし1番できなかったのは聞き取りでした。私は週に1度の会話の授業でドイツ人の先生に会う時以外、あまりドイツ語を聞く機会がなかったので、ラジオのドイツ語講座を聞くことにしました。また、LL自習室に通い過去の聞き取り問題を古いものから順番にくり返し聞き、声に出して読みました。

聞き取りの試験では、もちろんテープの音だけで内容を理解しなくてはいけません。これは話す人への口や表情などを見ながら話す時より難しいと思います。そのため、何度も過去の問題を解くことは、出題の傾向に慣れるだけでなく、テープのドイツ語に耳を慣らすことにも役立ちました。

初めて受けた独検は、とても緊張しましたが、しっかり準備ができたためが無事合格し、自分の自信になりました。

どの検定を受けるにも準備が必要です。そしてその準備のために、他の時間を削らなくてはなりません。それでも独検に限らず、全ての検定は、自分で勉強を進めることが必要とされる大学生には、定期的な良い目標になると思います。

フランス語検定合格体験記 — バーチャル座談会 —

文学部

中尾 浩

(この記事は仏検の3級または4級に合格した学生たちから寄せられた合格体験記を中尾浩が座談会風に再構成したものです)

中尾：今日はみんなにフランス語検定試験の合格の秘訣などを後輩に紹介してほしいと思います。まずはK君。受験しようと思った理由は？

K君：力試しっす。やっぱ世界にはばたくためには全国レベルの試験を受けないとダメかな、と。

中尾：相変わらず元気があってよろしい。T君は？

T君：なんか先生が3級までは取っておいた方がいいとか言ってたから。

中尾：そりゃそうだ。それだけかい？

T君：あと自分がどこまでできるか試したかったというもあります。

中尾：女の子はどうか？ Aさんの受験動機は？

Aさん：自分がどの位フランスを勉強したのかを測りたかったので受験しました。

中尾：だいたい、力試しという動機が多いようだね。若いうちはどんどんチャレンジしてください。とはいえ、せっかく高い受験料を払うんだから、みんなちゃんと準備はしたよね。Sさんはどう？

Sさん：私はフランスセミナーに参加した数ヵ月後に仏検を受けました。セミナーのおかげでフランス語に耳が慣れていたので、リスニングは過去問をやったくらいでそれほど勉強せずにすみました。でもフランス語に慣れていないとリスニングはとても不安だと思うので、テレビやラジオなどでなるべく多くのフランス語を聞くようにして、仏検を受けるまでに少しでもフランス語に慣れておくようにすると思います。文法は動詞の活用などをしっかり覚えなおし、問題集を一通りやってから苦手なところを何回かやりなおしました。

中尾：さすがSさんだね。準備万端で大変よろしい。フランスセミナー(2~3月)に参加した後の仏検(6月下旬)だと3ヶ月程度のインターバルだから、一番のチャンスだね。MさんとRさんは？

Mさん：参考書を買って勉強し、過去問題をやりました。

Rさん：とりあえずいままでの復習と3級の問題集と過去問をしました。

中尾：そうそう。二人とも僕の研究室(研究館2階237室)に過去問を取りに来たね。だいたい過去2年分ほどの問題はあるので、誰でも気軽に取りに来てください。世界にはばたくK君は？

K君：単語力が乏しかったので単語の勉強に時間をほとんど費やしたっす。過去問は問題形式がどんな感じが、見た程度っす。

中尾：元気だけでなく、用意周到な点も大変よろしい(笑)。語学の試験の場合、語彙力は合格に大きく影響してくるから、普段からきちんと単語帳を作るなどして備えておくとうれしいです。T君は？

T君：仏検対策の問題集と単語集といままで受けてきた授業の内容をやってきました。

中尾：3級までは普通の授業をまじめに受けて、きちんと理解できていれば大丈夫というお手本だね。さて、この段階でそろそろ依頼された枚数をオーバーしそうなんだが(笑) 後輩諸君へのアドバイスをお願いできるかな？

T君：問題集、単語集をやって、授業で習ったことをちゃんと把握していれば簡単に合格できると思います。がんばってください。

中尾：そうです。毎日の授業をきちんと理解することから全ては始まるのです。

K君：一日目は10単語。二日目は10単語プラス一日目の10単語つまり20単語。どんどん増やした。つまり継続は力なり。最近さぼってる私が偉そうなことはいえないが.....

中尾：わはは(笑)。でもアドバイスとしてはとてもよいです。単語量は常に増やしてください。

Sさん：皆さんならきっと大丈夫だと思うので、頑張ってください！

中尾：何事も己を信じることから始まるのだ。

Aさん：毎日ちょっとずつでいいから頑張ってください！頑張りましょう！頑張りな！

中尾：継続は力なりだね。

Mさん：ヒヤリングの練習もたくさんして問題をたくさん解いて頑張ってください。

中尾：不合格になる人はたいがい、聞き取りで点数が伸びていないので、準備を怠りなく！

Rさん：英検はみんなもってるから仏検もとってみんなに差をつけると良いです。がんばってください。

中尾：その通り！ 英語とフランス語の両方が出来て、初めて国際人の仲間入りだ。それでは、君たちも次はもう一つ上の級の合格を目指してがんばってください！



中国語検定

文学部 4年

清水多恵

私が検定を受けようと思ったのは、就職活動の時に、何か資格で書くものがあれば良いと思ったからです。自分が大学で中国語を習っていたという事を、証明できるものがあれば良いと思い、受けてみることにしました。

中国語をやっていたと言っても中国語の会話は、はっきり言って全然自信がありません。なので、ヒアリングの試験が心配でした。よく「耳を慣らす」と言いますが、どうやったら耳が慣れるのか、よくわかりませんでした。でも一つだけ、私が検定を受けるときにラッキーだったことがあります。それは、試験の少し前に中国に行ったということです。学校でやっている短期セミナーに参加していたということが、苦手なヒアリングをカバーしてくれたと思います。

試験は、筆記とヒアリングです。どちらかが得意であれば、試験勉強も苦手な方に絞れて良いのですが、私は両方とも得意とは言えません。ヒアリングだけでなく、筆記でも不安なことがありました。単語の声調とピンインです。いつもの授業では、声調もピンインも適当なことが多かったので、問題集をやってみても、半分もできませんでした。有気音と無気音、lとrの違いなど、普段から発音練習をしっかりやっておけば良かったと思いました。マーク式の四択なので、よけい迷ってしまいます。それに、問題集の問題がそのまま試験に出るとは限りません。私は授業の予習をすることで、試験勉強ができるという事に気が付きました。知らない単語や、今まで曖昧なままになっていた単語は、予習をしながら覚えていくようにしました。文法の問題は、問題集をやりながら覚えていきました。教科書に出てくる文と似ているものが多かったと思います。

検定を受ける前と後で変わったことは、普通の授業の取り組み方だと思います。それまでは、予習をし

て、授業中ずっと集中して聞いている、ということはありませんでした。テスト勉強も直前に出てきそうなところを暗記したり、ほとんど勘でやっていて、とてもいい加減なやり方だったと思います。でも検定を受けると決めてからは、自分なりのポイントが絞れたので、予習も授業もそれまでより集中してできました。テスト勉強もそんなに大変ではなくなりました。

検定を受けることで心配することも多かったですけれど、結果的に受けてみて良かったと思います。これまで自分が勉強してきたことの、まとめになったと思います。

高校までとは違い、大学では勉強する気持ちが無ければあまりやらないと思います。私も、大学に入って特にやりたい事があるわけではありませんでした。でも何か目標を立ててやればいいと思います。特に大学に入ってから、だらけた生活をしていると思っている人は、なるべく早く目標を見つけた方がいいと思います。勉強の事でなく、貯金するとか、旅行に行くとか、何でもいいと思います。何か目標があった方が楽しい生活になると思います。(中国語検定3級合格)

タイ語検定試験に挑戦

国際コミュニケーション学部 3年

脇谷 優美

私は5月にタイ語検定4級を受験し、ぎりぎりではありますが、なんとか合格することが出来ました。実は私は前の試験で5級を受験しましたが、落ちたという苦い経験もあり、今回はもう1度5級を受けるか迷いましたが、私は春休みを利用して2ヶ月間タイに滞在していたということもあり、一つ上の4級に挑戦しようと決心しました。私なりの勉強法を以下に述べたいと思います。

[筆記編]

まず、1ヶ月くらい前に過去問題をすべてコピーし、1～2週間のうちに一通り解いてみました。大事なあとと思ったことはとりあえず1回目から時間を

計って試験時間と同じ時間で全てを解くということでした。1回目から計ってやることで2回目3回目に自分が解くスピードが変化していくのが分かるし、ある程度緊張感を持って取り組めるからです。最初はほとんど解けませんでした。1回目を解き終わった後は自分の「試験に対する力」のなさというものを痛感しました。しかし過去問を1度解いてみるだけでも、試験問題にはある程度「パターン」があるということが分かりました。そこで何度も出てきた単語や繰り返し出てきた文法をノートに書きだしてみました。

そしてその後で2回目を解きました。覚えつつもりでいてもミスしてしまいました。うやむやに覚えたものはもちろん自信を持って答えを書けませんでした。だから、間違えた問題はもう1度ノートにとりました。さらに持っている単語帳にチェックし覚えようと思いました。しかし1度やって覚えつつもりでいたものが出来ないのこのあたりで嫌気がさしてきました。はっきりいってつまらないのです。しかしここでやめたら落ちると思い、3回目に突入！だいぶ自分の中で記憶しているのでミスは少なくなりました。それでも分からない問題はあります。「分からない」というのはなぜこの選択肢になるのか分からないということです。

そこで頼りになるのが先生だと思いました。語学の先生はなんでも答えてくれます。どんなに小さな質問でもわかりやすく教えてくれます。だから辞書や文法書を使っても分からなかったら必ず先生に聞いて分かるようにすることが大切だなと思いました。これは前回私が5級を受けて落ちた時にはしなかったことでした。

[リスニング編]

今年はタイからの留学生が愛大にくるという大変嬉しい年で、その子にお願いして受験する子たちと一緒に生のタイ語を聞いて練習するという機会をもうけました。あとはLL教室に入っているカセットをダビングしてこれも3回どおり解きました。リスニングは3回に限らず何回も何回も聞く必要があると思います。それは試験問題に限らず、タイ語であればなんでもいいと思いました。とにかく聞き続け

ることで耳は自然に慣れていくと思います。わたしはあまり聞いていなかったのでリスニングでは点数が取れず、あと1問ミスしていたら不合格でした。これは自分でも反省材料だと思いました。

自分では自分なりにやったと思ってもぎりぎり合格ということで、やはり後で反省してみると、本当に勉強を頑張ったと思えたのは試験5日前だったなあとということでした。

やはり勉強は早く取り掛かって早すぎるということは決してないと思います。

語学試験というものは自分のやっている語学の語学力を試すいい機会だと思います。特に私はタイ語ということで、普段なかなか使う機会もありません。なにか目標があったほうが勉強もはかどると思います。私は語学試験に向かって勉強することでわたしなりに充実感を得ることもできました。そして自己満足を得られました。合格通知が届いた時には思わず友人に電話をかけてしまうほど嬉しかったです。

しかし、私が思うに試験結果も大切ですが、一番大切なことはまず語学試験に挑戦してみる、ということではないでしょうか。



中国語の単語の学び方 — 語豪 鷗外の文机から —

経済学部

葛 谷 登

明治の文豪森鷗外は和、漢、洋の言語に通じた言わば「語豪」でもありました。同じく文豪と称せられた漱石も和、漢、英の語に通じていましたが、鷗外は洋は独、仏、英、羅語に（恐らく希語にも）精通し、さすがに漱石も後塵を拝せざるを得ません。

漢学の素養も相当なものがあり、中国の言わゆる文、史、哲の三分野にその造詣はわたっていたのではないのでしょうか。と言って、中国を素材とした鷗外の作品となると、わずかに「魚玄機」、「寒山拾得」の二つしか思い浮かびませんが、この二作は短編ながら、十分に鷗外の漢学への造詣のほどをうかがわせる奥行きのある作品です。中国語を学ぶ者にとってもその教養の滋養となるものであって、中国語学習のかたがた、是非手に取って読んでいただきたいものです。

さて、本題に入り、語豪鷗外の文机から中国語の単語の覚え方につき、その妙諦を探ってみましょう。

鷗外の明治四十二年の作品に、「キタ・セクスアリス」というものがあり、これは性という側面から鷗外自身の青春を描いた特異な自伝小説です。「白面の書生」である現役の大学生には性科学の書としても読み甲斐があると思います。この作品は医学者の眼をもって真面目に書いたものでありながら、明治の御世では発禁となったいわくつきの小説です。

その一節に、

寄宿舎では、其日の講義のうちにあった術語文を、希臘拉甸の語源を調べて、赤インキでペエジの縁に注して置く。教場の外での為事は殆どそれ切である。人が術語が覚えにくくて困るといふと、僕は可笑しくて溜まらない。何故語源を調べずに、器械的に覚えようとするのだと云ひたくなる。（傍点筆者）

とあります。西洋の言語の単語を覚えるには、遠回りのように見えても、語源を押えるのが第一だと鷗

外は言うのです。

これを中国語に置き換えるとどうということになるでしょうか。中国語は声調言語ですから、単語を覚えるときには声調、それも声調の組み合わせを意識して覚えることが大切であるのは言うまでもありません。もう一つ気をつけたいのは中国語は単音節の言葉だということです。一つ一つの音節に意味があり、その意味を表示した漢字があります。(一つの音節)＝(一つの意味)＝(一つの漢字)です。

現代中国語の単語は大体二音節から来ています。それであ一つの意味を表わしているわけですが、それを構成する二音節、つまり二つの漢字のそれぞれの意味に着目することです。一つの単語を形作っている漢字一字一字の意味をさかのぼって確かめる作業を試みるのです。迂遠な作業のようですが、中国語の単語の特質というか、本質に触れることの出来る遊びの要素を持った楽しい作業でもあるのです。

もう一つ、中国語の単語を覚えるためにも、～これは誰にも勧められるというものではありませんが～、鷗外のようにいろいろな言葉に触れてみる事です。鷗外の言語観が詳しく現れている作品に大正四年の「二人の友」があります。この作品には「二つの語を浅く知るよりは、一つの語を深く知りたい」独語狂の青年(福間博。一高教授。芥川龍之介のドイツ語の師。)が登場します。「役人をして、旁フランス語を稽古して暮す」ドイツ語にも通じた小倉第十二師団軍医部長鷗外とは対照的な位置にあります。

鷗外はこの青年に、「亦一説だね」と言って切り返しますが、鷗外の考えるところは「一つの言語を深く知るには、一つの言語にとどまっていたはだめだ」というあたりではないかと推察されます。要は、言葉への道が違うということでしょうが、凡人のわたしたちは岐に哭すしかありませんね。

最早、紙幅が尽きました。最後に鷗外の明治四十二年の作「當流比較言語学」の冒頭の一節を紹介して稿を終えましょう。どうぞ一読!!

或る国民には或る詞が關けてゐる。

何故關けてゐるかと思つて、よくよく考へて見ると、それは或る感情が關けてゐるからである。

大学の外国語授業で、 どういう力をつけるか

非常勤講師(中国語担当)

鈴木常勝

1、「声づくり」と「体づくり」が、中国語学習につながる。

中国語は高低のアクセントが、日本人にとっては極端に思えるほど、強調される。この高低アクセントは、「高」「昇」「低」「降」の四種があり、「四声」と言う。同音でも、「四声」の違いで意味が変わるので、「四声」をマスターすることが、入門期には、最も大切である。

現代日本人の日本語は、口先だけでモゴモゴと発音する傾向がある。その上、今どきの学生は、教室の中では目立つことを嫌うのか(「でしゃばるな」という周囲の目と、本人の「発言するのは面倒だ」という消極性が、相互作用をなしているようだ)授業中の発言が少なく、発言させても聞こえないほどの小声である。

このような今どきの学生に対して、私は上半身全体を使って、中国語を発音するように指導している。「高」の音は頭のとっぺんに響かせる、「低」の音は胸に響かせる、というように。この指導で、「高」「低」のアクセントのイメージが明確になり、「体中を響かせて声を出す」中国人の発声に近づくことができる。

緊張してあがっている時は、声が上がってしまう。おなか(実際は臍下丹田)から声を出すと、余裕を感じさせる。「体全体からの発声」のためには、「上虚下実」(上半身は軽やかで、下半身がどっしりしている)の体づくりが必要だ。そのため、私は中国語の授業に太極拳の練習を取り入れている。

2、反復練習により「量質転化」をはかる。

「外国語はくり返し練習でマスターする」というのは、誰もが納得する法則だろう。水泳や自転車乗

りをマスターするのと同じことである。反復練習をいかに興味づけるのかが、教員の工夫のしどころである。

私の授業は、始めに、中国語の歌（中国人なら誰もが知っている、テレサ・テンの中国語流行歌、中国語歌詞の「鉄腕アトム」の歌「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」など）を歌う。それに加えて、中国映画「初恋の来た道」から抜き出した、劇中の小学生の朗読文「人、世に在りては、志、有るべし...」を、朗読する。

この実践は、耳から中国語の発音に慣れるとともに、学生に大きな声で中国語を発音させるためである。おとなしい彼らに声を出させる「仕掛け」が、授業活性化の第一歩である。

学生からは、「授業が終わってからも、歌のメロディが頭の中に響いている」「中国人の誕生日に、中国語で《ハッピー・バースデー》を歌ったら、すごく喜ばれた」「中国人留学生といっしょにテレサ・テンの歌をうたって盛り上がった」「おじさん世代（日本人）に中国語で鉄腕アトムを歌って、拍手喝采をあげた」などの体験談が寄せられている。

さらに、もうひとつの素材は、「マクドナルド会話」である。マニュアル社会の典型であるマクドナルドは、接客会話もマニュアル化されている。日本も中国、台湾も基本的に同じである。そこで、学生たちの耳の慣れた、この会話を、「いらっしやいませ」から「またお越しくださいます」まで、中国語で反復練習させる。この試みも、現代社会と中国語の接

点を求めた結果である。

3、コミュニケーション力は、「入門期」にこそ。

「半年の中国語学習の成果で、留学生と話ができる」

学生に「中国語で会話ができる」という自信を持たせ、これからの学習課題を自覚させるため、六月に、「留学生との会話」を課題としている。自分で留学生を見つけ、会話の相手になってもらう。毎回、この体験は、日本人学生、留学生双方に、深い印象を残している。

「留学生に私の中国語が通じた！」

「自分の発音や文法の誤りが、よくわかった」

「アルバイトで忙しい留学生が、にこやかに会話相手になってくれた」

「留学生の故郷の町に興味を持った」

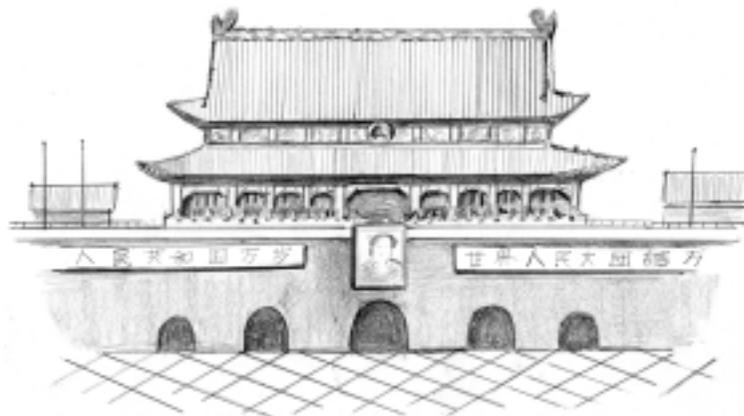
「日本語の上手な留学生に、外国語学習のコツをきいてみたい」

「留学生から日本語について質問を受けた」

いろいろな思いがわきおこったことが、学生の体験談からうかがえる。

私は学生たちに問う。

「留学生から、助詞の《は》と《が》の違いをきかれたら、どう答える？ 喫茶店で注文する時に、《私はコーヒーです》とは言えるのに、《私がコーヒーです》と言えないのは、なぜか？ 《むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんは、いました。おじいさんが山へ、おばあさんが川へ...。川の



上流から、桃はドンブラコと流れてきました。...》
 ーこの《は》と《が》の使い方をおかしいと感じるのは、どうしてか？」

日本人学生と留学生が教え合い、母語に対する認識を深めるのも、外国語教育のひとつの目的である。それは、外国語の翻訳能力の基礎になる。

もうひとつの試みは、中国語紙芝居である。

簡単なストーリーをやさしい中国語で、中国の子どもたちに語る。中国の街角で演じる度胸、紙芝居という日本独自の文化の紹介、中国の子どもたちといっしょに笑い合う楽しさ...中国の街頭での紙芝居を、私は学生たちにすすめている。「見る旅」から「交わる旅」への、発想の切り換えである。

おまけに、お客の子どもたちから、中国語を学べる。絵の中の名詞がわからない時は、それを指さして、「これは何？」と問えばいいし、動詞を忘れた時は、「この人は何してる？」ときけばよい。中国の子どもたちは得意になって答えてくれるだろうし、子どもたちがストーリーに入ってくることによって、その場はいっそう盛り上がる。街頭で子どもたちから中国語を学ぶやり方は、私の留学時代の体験にもとづく。

「ブタがぶった」のストーリーを紹介しよう。

- ①ブタがブタをぶった。
- ②ブタがブタにぶたれた。
- ③ぶたれたブタもぶったブタをぶったので...
- ④ぶたれたブタもぶったブタも...
- ⑤ぶったおれた。アイヤー（中国語の感嘆詞「あらまあ！」）

日本語の言葉遊び「ブタがブタをぶった。ぶたれたブタがぶったブタをぶったので、ぶたれたブタもぶったブタも、ぶったおれた」を、五枚の紙芝居にしたものだが、日本語で演じれば、中国の子どもも「ブタがブタをぶった」という日本語をおぼえるし、中国語で語れば、「ぶたれた」という受身文の言い方をマスターできる。

4、外国語学習の目標と学習計画を立てる「段取り力」をつける。

私は初回の授業で、学生に中国語学習の目的と到



達目標を問うアンケートをしている。そして期末に、目標達成ができたかどうか、本人に振り返らせる。

このやり方で、学生に自分の学習計画を改善し、「段取り力」をつける自覚を促す。

5、大学の外国語教育で何をするか

- ①「声づくり」と「体づくり」
- ②反復練習をやりとげる力
- ③コミュニケーション力
- ④段取り力

私が述べた、これらの力を手に入れば、その人の一生の財産になる。「大学での外国語教育の目的」を明確化は、学生の学習意欲を高めることになるし、外国語担当教員の役割の重要性の認識にもなる。

関西の某マンモス大学では、外国語教育を外部の専門学校に委託しようとする動きがある。もし実現すれば、大学教育の中で、外国語はますます専門科目との有機的関連が薄れ、外国語担当教員は削減されるだろう。大学に限らず、「学校教育でどんな力を付けるか」が問われている現在、外国語担当教員は、その問いに答える授業をすべきであろう。

この小文は、『声に出して読む日本語』でベストセラー現象を起こした齋藤孝（明治大学助教授。教育学・身体論）の「学校は何をする場所か 21世紀に求められる三つの力」（雑誌『世界』01年4月号）に触発されて書いたものである。

私の中国語授業実践と学生の感想文については、「愛知大学一般教育論集 21号」（01年9月）所収の「《中文授業書》の試み」をお読みください。

LL Tea Time

国際ワークキャンプに参加して ～素晴らしい出会い～

文学部 3年

松本友紀

2001年の夏、以前から海外ボランティアとヨーロッパに興味があり、主にフランスやイタリアなど西欧と呼ばれる国々にとても夢中になっていた私は、約一ヶ月フランスへ行き、その間の約3週間、“ワークキャンプ”に参加しました。それによって私はかなりの影響を受けて帰ってきました。

ワークキャンプとは実は、私もなんと説明すればよいのかわかりませんが、簡単に言えば、食料と宿泊場所が無料提供され、そこで世界中から集まった人達と2～3週間一緒に生活しながら地域の人と一緒に仕事（ボランティア）をするというものです。

参加したワークキャンプのプログラムは、NICE（ナイス）という所に紹介してもらいました。そこへ参加希望の手紙を書くときは、行きたい気持ちばかりが焦っていたのですが、いざ決まって七月の半ば、準備をしなければならなくなった時から、私の心情はとても複雑でした。不安と期待が、ずうっと葛藤していました。しかし、飛行機に乗り込んでしまうと、もうやるしかないと開き直り、何故かこれからだというのに、かなり気が楽になっていました。

そして、何とかフランスの目的地に着き、これから一緒に過ごしていく人達と合流しました。そこでは、日本（私以外）、カナダ、スロヴァキア、トルコ、フランス、ベルギー、チェコというさまざまな国の人に出会うことができました。最初は、自分の語学力など、いろいろなことについてとても不安でたまりませんでしたし、何をやるにもいっぱいいっぱい

の状態でした。しかし、そんな状態でもとても楽しい毎日でした。とにかくみんながおもしろかったのです。本当に。夕食の時などみんなでしゃべる時は本当に楽しくて。何が楽しかったか、話す事、やる事、起きる事、きっとここで具体的なことを述べるとくだらない事だと思うのですが、その時はおもしろくて仕方なく、常に笑っていた気がします。お互いの言葉にみんな目を丸くして、そしてなぜ自分達の言葉に目を丸くしているのか分からないのがまたおもしろいといったことの連続でした。いつもは、英語が飛び交っていますが、同じ国同士で話し出すと急に不思議なリズムと音が聞こえてきて、みんな静かになって聞き入っていました。そしてその後にあ～だこ～だと言いつつ合います。英語の語学力のなさも、必死に伝えようとするその表現の仕方、言葉の選び方も逆におもしろく、皆でお互いに大笑いしたこともしばしばで、自分の言葉が機械的ではなく、気持ちのこもったものになったような気がしました。そして、簡単な挨拶や、数字なども教えてもらいました。だんだんお互いの事も知り、各国やその歴史についていろいろ話し、時折、とても今までに私が考えた事もなく、言葉が出てこなくなってしまうような鋭い事をしかも深い所を聞かれました。みんな賢いなあと思い、今までは考えもしなかった自分の国についてのいろいろな事にも関心を持つよ



うになりました。例えば、西暦と年号。なぜ二つもあるのか？どうやって使い分けているのか？日本語の文字も、なぜ3種類もあるのか？どうやって使い分けるのか？日本は第二次世界大戦中に原爆を落とされたが、日本人はアメリカ人を憎んでいるのか？などなどです。私は、みんなの質問にきちんと答えられない自分に愕然としましたし、自分の知識の乏しさと頭の狭さに肩と頭を落としました。しかし、結果としては、それは自分にとってとてもいい刺激になったと思います。

私達は、かつて農家であったところに宿泊しました。そこは山々に囲まれていて、まるで印象派の画家の絵（ゴッホのような）の中にいるようで、初めてこのような景色を見た私はものすごく感動しました。そして、夜になると、たくさんの星がすごく近くにあって、流れ星がたった10分間の間にもいくつも見られました。仕事は、古くてもう使っていない土や草でいっぱい小さな水路をきれいにし、またもう一度水を通すという事と、そこにある建物の一つの天井に手を加えよりよいものにするという事の二つでした。私は、主に水路の仕事をしていたのですが、そこが山の中であるがために距離はなくても、結構急な斜面を移動するには体力が要りました。

ワークキャンプ中には、楽しい事もたくさんありましたがトラブル、辛い事、戸惑う事、いやな事もありました。例えば、考え方の違いから個人的に対立してしまい、一週間目にカナダ人の二人はそこから去ってしまいました。そして、トルコの子ももっと観光がしたいとその翌週、去ってしまいました。そして、私は、疲れと、語学力のない耳に毎日聞かなければならない言葉のストレス。早く日本に帰って湯船につかりたいと日本人の子に毎日のように言うようになっていました。

ところが、日本に帰って来て家族四人で食事をしていると、とても不思議な感覚に捕らわれたのです。それは、“何か欠けている”という感覚でした。たった3週間でしたが、フランスでのいつも10人を越えたみんなとの食事が頭の中で普通になっていたようで、しばらくの間その感覚は続きました。今でも

思い出すと恋しくなります。

私は、このワークキャンプでいろいろな人に出逢ってその人柄に惹かれ、その人に興味を持ち、好きになりました。そしてその事によってその人々の国にも大きな関心を持つようになりました。それらの国を好きになった理由、きっかけは単純ですが、今では、なぜそれまでこうした国々のおもしろさに気がつかなかったのだろうと不思議に思います。私が経験し、そして感じたことはわずかししか書けませんが、本当にあのワークキャンプに参加して良かったという以上の想いが今も心に残っています。

ワークキャンプには様々な国での様々なプログラムがあります。私は、また是非、今度は違う国の別のワークキャンプ・プログラムに参加したいと思っています。

NICE (ナイス=日本国際ワークキャンプセンター)

: <http://nice1.gr.jp>

: E-mail : info@nice1.gr.jp

〒160 0022東京都新宿区新宿2 4 2 701

tel:03-3358-7140

(月～金10:00～12:30/13:30～18:00)



ワークキャンプ中、宿泊した家の前で、ボランティアの仲間達と

自習室だより

継続は力なり！

自習用語学教材として以下の資料を毎月受入れています。

語学力向上に役立ててください。

NHKテレビ語学講座

- ◇ はじめよう英会話
- ◇ 英会話トーク&トーク
- ◇ 英 会 話
- ◇ 英語ビジネスワールド
- ◇ ドイツ語会話
- ◇ フランス語会話
- ◇ 中国語会話
- ◇ ロシア語会話
- ◇ イタリア語会話

NHKラジオ語学講座

- ◇ 英会話レッツスピーク
- ◇ 英語リスニング入門
- ◇ ビジネス英会話
- ◇ ドイツ語講座
- ◇ フランス語講座
- ◇ 中国語講座
- ◇ ロシア語講座
- ◇ 안녕하십니까? ハングル講座
アンニョン ハ シ ム ニ カ
- ◇ イタリア語講座
- ◇ スペイン語講座

外国語検定試験合格者に 奨励金を贈ります！

語学教育研究室では外国語検定試験合格者に奨励金(図書券)を贈る自主学習支援の制度を設けています。昨年度は延べ80名の学生に奨励金が贈られました。

今年度も下記により受付しますので合格者は申し出てください。

記

1. 対象学生
愛知大学豊橋校舎学生及び短大生(大学院生、オープンカレッジ生、科目等履修生、研究生は除く)
2. 奨励基準
追って教務課およびLL自習室の掲示板に示します。
3. 受付期間
2003年1月15日(水)～1月31日(金)
4. 手 続
学生証および合格通知書を3号館LL自習室カウンターまで持参し、申し出る。
5. 奨励の対象
2002年2月～2003年1月の間に合格した分に限る。

お願い

LL自習室を利用される皆さんからの投稿をお待ちしています。

次号の原稿締切は12月です。



カット.....豊橋語学教育研究室
事務室

